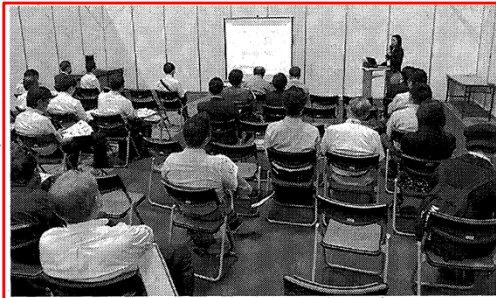


発電機やバルク・簡易スタンド LPガス災対機器に注目



カグラペーパーテックの久保愛美氏はLPガスを活用したBCP対策を提案した



I・T・Oの「BOGETS」

中部ライフガードTEC

5月30〜31日に名古屋市のポートメッセなど、で開催された第7回中部ライフガードTEC2019(防災・減災・危機管理展、名古屋国際見本市委員会主催)に、LPガス関連企業が出展した。

自然災害が多発し危機意識が高まっていることもあり、今回は1万8920人(前年比87人増)が来場した。会期中に第22回国際福祉健康産業展(ウェルフェア2019)が併催され、ライフ

ガードTECにも足を運ぶ医療・福祉施設関係者が多かった。LPガス関連では発電機が注目された。朝日ガスエナジー(本社・四日市市、田中佳彦社長)はLPガス容器やカセットこんろからの供給で稼働する低圧LPガス発電機

を紹介。「来場者の中には最初から発電機を見る目的で来た人がいた」ように、2日分用意したチラシも初日でなくなるほどの反響だった。災害対応型ユニット「安心くんJr」とデリバリーステーションも展示した。

カグラペーパーテック(本社・尼崎市、玉井健一社長)と位田モーター(本社・名古屋市長、位田幸司社長)は共同ブースで発電機を出展した。リモート(コネク)ユニットの試作機も展示し、スマートフォンから起動や監視の遠隔操作ができる点をPRした。発電機はLPガス、都市ガス、ガソリンの3燃料に対応可能だが、会場ではFRP容器と接続した形で紹介。発電機と併せ容

器の特徴も案内した。LPGバイフューエル車と簡易LPガススタンド「オートコンボ」を組み合わせた自動車燃焼モデルもPRした。モデル事例としてパン製造業のエースベーキング(清須市)、給排水設備工事業の菅原設備(津島市)、熱絶縁工事業の浅野保温(愛知県扶桑町)のインタビュー動画を放映。来場者にLPG併燃車とオートコンボを組み合わせたビジネスモデルの優位性を訴求した。

オートコンボは自衛的燃料備蓄の推進に向けた18年度補正予算と19年度予算で、これまで対象外だったディスプレイを合わせて補助対象となっている。両社は補助金活用と併せ、中小企業庁の認

定制度で得られる優遇税制を活用した設備導入スキームを提案し、設備導入のハードルを引き下げている。31日にはカグラペーパーテック新規事業部の久保愛美氏が、特設会場で「製造・物流のBCPレベルを上げる方法」と題しプレゼンテーションした。LPガスの備蓄・利用体制を整えておけば、被災時にも車両に充填し企業活動を継続できる点をPR。発電や炊き出し、空調にも使えることを紹介し、自社を地域のエネルギー拠点として活用することで企業価値の向上につなげているエースベーキングなどの先進事例を紹介した。

I・T・O(本社・東大阪市、内海二郎社長)は、LPガスから都市ガスと電気を作り出す防災減災対応システム「BOGETS」を紹介。LPガスに空気を加えて都市ガス同等のガスに変換する装置「PA-13A」を一新した「NewPA」(昨年11月発売)を展示した。NewPAは一般消費者でもタッチパネルと音声ガイダンスに従って容易に操作できる。都市ガス消費先で供給が停止した際にも、LPガスを活用してこんろやガスストーブ、給湯器などを使用可能な点を、パネルも活用しながら説明した。ウェルフェアではトヨタ自動車が「ジャパンタクシー」を出展。車いすのまま乗車できる点を、試乗体験を交えて紹介した。

は、LPガスから都市ガスと電気を作り出す防災減災対応システム「BOGETS」を紹介。LPガスに空気を加えて都市ガス同等のガスに変換する装置「PA-13A」を一新した「NewPA」(昨年11月発売)を展示した。NewPAは一般消費者でもタッチパネルと音声ガイダンスに従って容易に操作できる。都市ガス消費先で供給が停止した際にも、LPガスを活用してこんろやガスストーブ、給湯器などを使用可能な点を、パネルも活用しながら説明した。ウェルフェアではトヨタ自動車が「ジャパンタクシー」を出展。車いすのまま乗車できる点を、試乗体験を交えて紹介した。

は、LPガスから都市ガスと電気を作り出す防災減災対応システム「BOGETS」を紹介。LPガスに空気を加えて都市ガス同等のガスに変換する装置「PA-13A」を一新した「NewPA」(昨年11月発売)を展示した。NewPAは一般消費者でもタッチパネルと音声ガイダンスに従って容易に操作できる。都市ガス消費先で供給が停止した際にも、LPガスを活用してこんろやガスストーブ、給湯器などを使用可能な点を、パネルも活用しながら説明した。ウェルフェアではトヨタ自動車が「ジャパンタクシー」を出展。車いすのまま乗車できる点を、試乗体験を交えて紹介した。